

SID R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第2巻第25号

第25週(6月17日～6月23日)

発行年月日:平成14年(2002年)7月1日

発行:滋賀県立衛生環境センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～4類)

感染症類型	疾患名	報告数 (25週)	累積報告数 (1週～25週)	平成13年 報告数
1類感染症	報告なし	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	4	4
	パラチフス	0	1	0
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	44
4類感染症	アメーバ赤痢	0	4	5
	急性ウイルス性肝炎	0	1	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	2
	後天性免疫不全症候群	0	1	6
	ジアルジア症	0	0	1
	ツツガムシ病	0	0	2
	梅毒	0	3	6
	レジオネラ症	0	0	1

2) 定点把握の対象となる4類感染症

疾患名	定点当たり患者数		
	25週	増減	19週～24週
インフルエンザ	0		0.04
咽頭結膜熱	0.94		0.79
A群溶連菌咽頭炎	0.31		0.71
感染性胃腸炎	3.44		4.90
水痘	2.22		3.07
手足口病	0.56		0.21
伝染性紅斑	0.16		0.43
突発性発疹	0.63		0.54
百日咳	0.03		0.01
風疹	0.03		0.05
ヘルパンギーナ	0.63		0.21
麻疹	0		0.19
流行性耳下腺炎	1.22		1.17
急性出血性結膜炎	0		0.02
流行性角結膜炎	0.29		1.21
急性脳炎	0.14		0
細菌性髄膜炎	0		0.02
無菌性髄膜炎	1.71		0.31
マイコプラズマ肺炎	0		0.48
クラミジア肺炎	0		0
成人麻疹	0		0

* 増減は、平成14年19週～24週の平均に対する今週との比較
増加 減少 変化なし

* 太字は、今週の注目される疾患です。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**において公表されています。
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

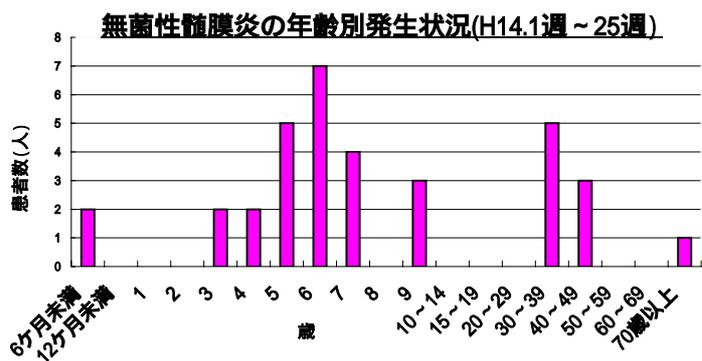
3) 今週のトピックス

無菌性髄膜炎に流行のきざし

病原体情報: エコーウイルス13型について

滋賀県における定点当たり患者数について、平成14年19週～24週の平均と平成14年の25週を比較すると、咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎等に増加傾向がみられます。特に、無菌性髄膜炎は急増しており、今後の発生動向に十分な注意が必要です。

無菌性髄膜炎の年齢別発生状況および保健所別定点当たり患者数は下記のとおりです。

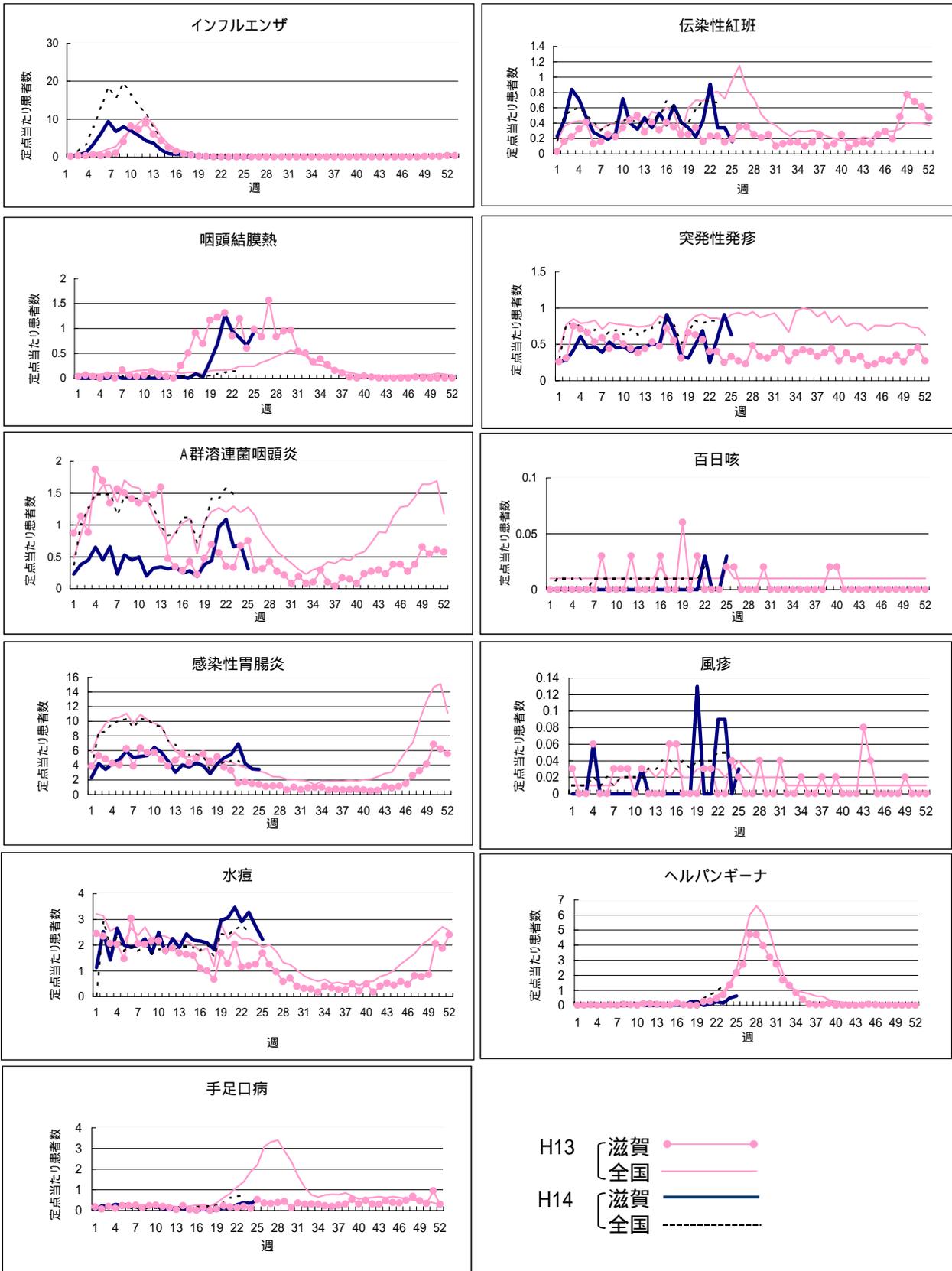


無菌性髄膜炎の保健所別定点当たり患者数(H14.25週)

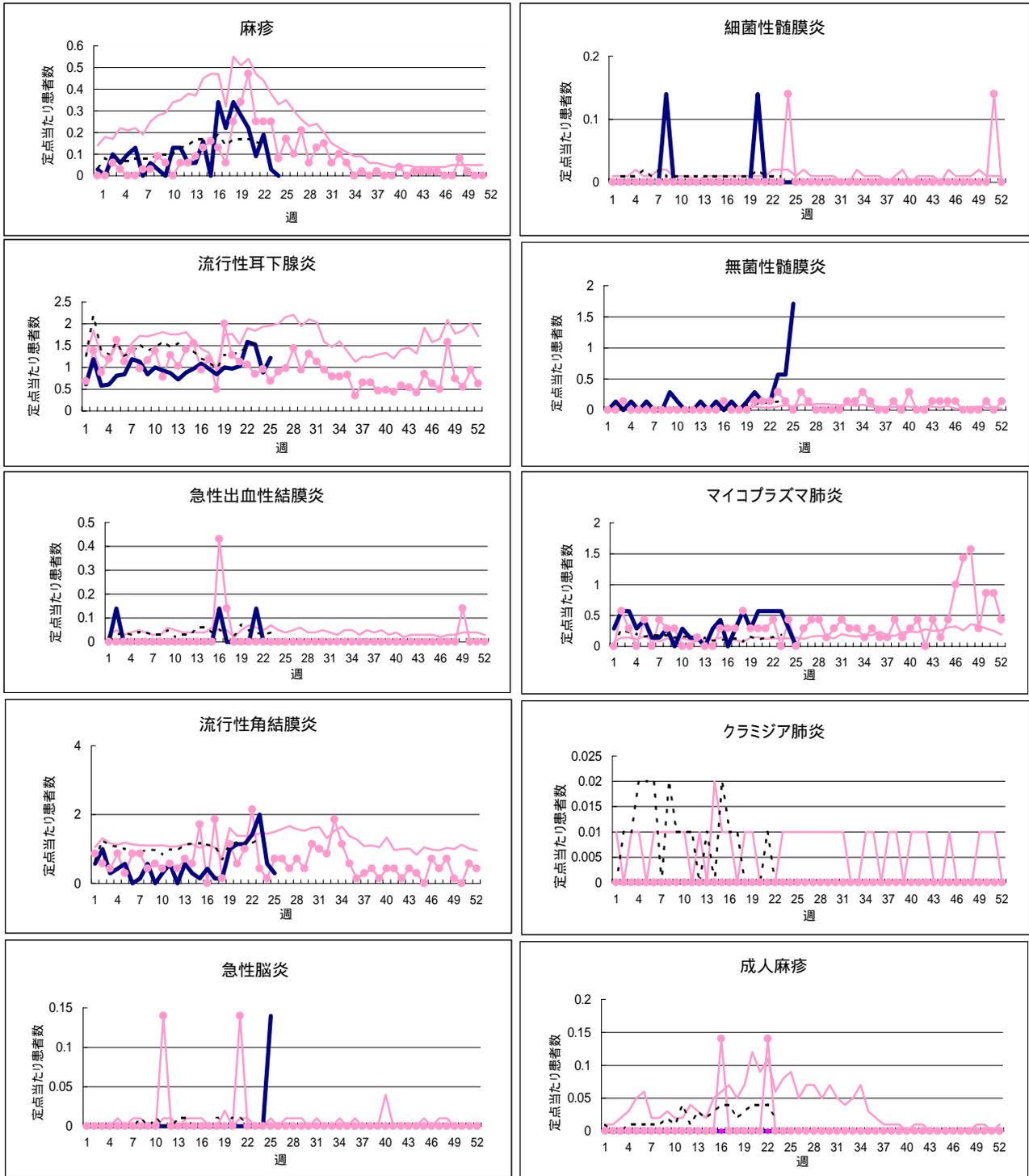
保健所	定点当たり患者数(人)	保健所	定点当たり患者数(人)	保健所	定点当たり患者数(人)
大津	2.00	八日市	0	長浜	10.00
草津	0	彦根	0	今津	0
水口	0				

無菌性髄膜炎の罹患年齢は、幼児および学童期が中心ですが、30歳～49歳等の年齢においても発生しているため注意が必要です。また、予防としては、うがい、手洗いを十分行い、患者との濃厚な接触をさけることが重要です。

疾病別定点当たり患者数 (平成14年第1週～第25週)



疾病別定点当たり患者数(平成14年第1週～第25週)



H13 { 滋賀 ●——●
 { 全国 ————
 H14 { 滋賀 ————
 { 全国 - - - - -

特集

エコーウイルス 13 型について

エコーウイルス 13 型については、1982 年から 2000 年まで、日本国内において分離されたことはなく、他県で実施された住民の抗体保有状況調査の結果、抗体保有率は低いものであったことが示されています。

2001 年 9 月に国内ではじめて、エコーウイルス 13 型が分離され、その動向が注目されていたところですが、2002 年 1 月以降も、全国的に無菌性髄膜炎患者よりウイルスが分離されてきていることが国立感染症研究所感染症情報センターより報告されています（図）。

滋賀県においても、2002 年 5 月発症の無菌性髄膜炎患者 1 名および発熱症状を示した 1 名から、エコーウイルス 13 型が分離・同定されました。さらに、4 月発症の無菌性髄膜炎患者 1 名、5 月発症の 4 名、および 5 月発症の胃腸炎患者 1 名からも、エコーウイルス 13 型が疑われるウイルスが分離されています。

また、6 月に無菌性髄膜炎を発症した 3 名から、エコーウイルス様の細胞変性効果をもつウイルスが分離されています。

エコーウイルス 13 型は、滋賀県においても流行が認められていないため、住民の抗体保有率は低いことが予想されます。さらに、通常、無菌性髄膜炎は初夏から秋にかけて流行しますが、2002 年は早い時期からエコーウイルス 13 型が分離されているため、今後エコーウイルス 13 型による無菌性髄膜炎の流行が予想されます。

今年になってからのエコーウイルス 13 型の分離は、福井県、石川県、和歌山県、京都府、大阪府、岡山県などから報告があります。（2002 年 6 月 28 日現在）

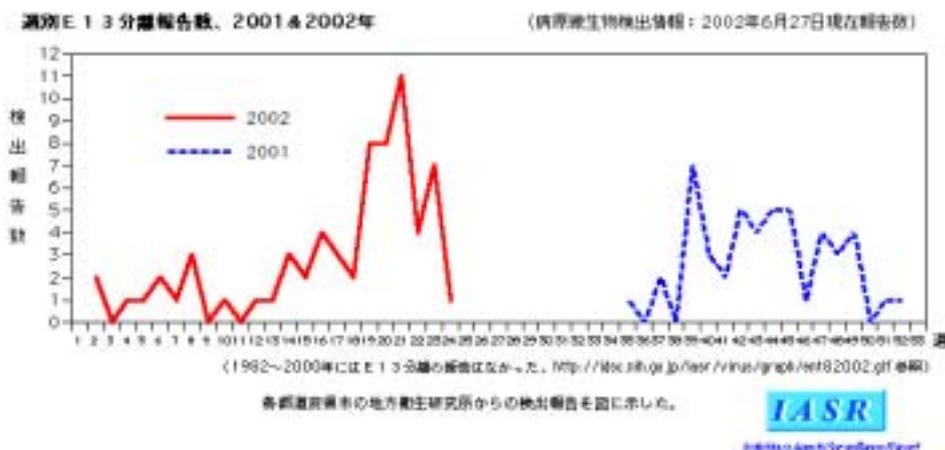


図 エコーウイルス 13 型の週別分離数(2001 年第 35 週～2002 年 24 週、全国)
(国立感染症研究所感染症情報センターホームページより引用)